



□ニュートンのリンゴ結実

新発田市富塚にある敬和学園大学（北垣宗治学長）のキャンパスで、「ニュートンのリンゴの木」が、実をつけ始めた「写真上」。すでに赤く色づいたものもあり、大学側は初めての収穫を心待ちにしている。

「ニュートンのように世界をリードする人材が育ってほしい」と開校時（一九九一年四月）に秋田県果樹試験場から譲り受けて接ぎ木した。今では、高さ約二・五メートル、根元の幹の直



径が十センチほどに成長。今年は実が二十個ほどついた。

同大によると、「ニュートンのリンゴ」は戦後まもなく「本家のイギリスから果実で東京の東大付属植物園に送られてきた。その後、接ぎ木などをして各地で増え、「子孫」は全国三

十一カ所で育っているという。

敬和学園では昨年も結実したが、台風で落下した。それだけに今年は期待は大きく、収穫したリンゴを優秀な学生にプレゼントする構想も。職員からは「木から実が落ちるのをこの目で確かめたい」という声も出て

いる。